

市長の市政運営方針に対し

5 会 派 が 代 表 質 問

2月25日の本会議冒頭、伏見市長は、令和7年度の市政運営方針を説明しました（内容は下記参照）。これに対し、各会派を代表する5人の議員が、3月4日・5日の2日間にわたって代表質問を行いました。

※質問の内容については、各議員が項目を選定の上、要約して掲載しています（そのため、実際の発言口調とは異なる場合があります）。

なお、会派構成は発言当時のものです。

会派を代表しての質問に対し、市長及び教育長が答弁しています

各会派の代表質問の録画映像は、市議会ホームページの「本会議録画映像」から御覧いただけます。



◀代表質問の録画映像はこちら

質問！



総合型放課後事業 時間延長や昼食提供など 子育て支援のさらなる充実を

大阪維新の会
枚方市議会議員団

鍛治谷 知 宏
小 池 晶 子
門 川 紘 幸
泉 大 介
岡 市 栄次郎
妹 尾 正 信
大 濱 暢 祐
佐 田 あゆ美
志 甫 直 哉
高 野 寿 隆



おかし いし じ り う
岡市栄次郎

【議 案】 共働き世帯の増加や働き方の多様化により、子育て支援のさらなる充実是不可欠であり、総合型放課後事業（※1）の拡充を求めている。留守家庭児童会室を土曜日も開室するというが、今後、放課後オープンスクエア（※2）については活動時間延長の検討を行う考えはあるのか。

また、長期休業期の昼食提供サービスの全校拡大に向けて、どのような取組を進めるのか。

【教 育 長】 アンケートから、留守家庭児童会室の入室児童が土曜日の放課後オープンスクエアを利用している実態がわかったため、まずは土曜日に同室を開き利用実態を検証した上で、土曜日の総合型放課

後事業の在り方を検討する。また、昼食提供サービスは、試行実施で得たノウハウを生かして弁当事業の拡大を図り、全校実施に向け取り組む。

【要 望】 的確なニーズの把握に基づき、効率性と実効性を兼ね備えた事業の運営を行うとともに、全校で空調を整備

した体育館については、子どもの意見にも耳を傾け、多様な体験ができる居場所となるよう事業の充実を要望する。

【要 望】 市の財源確保は喫緊の課題である。財政状況が厳しくなる中で、財源確保は喫緊の課題

である。これまで以上にふるさと納税の積極的な取組が必要となるが、考えを聞く。

【市 長】 個人からのふるさと納税は寄附のピーク時期を逃すことなく、ウェブ広告等を活用したPRを強化するとともに、事業者に対してセミナーを実施するなど寄附者の興味を引くことができる新たな返礼品の開拓を目指す。企業版ふるさと納税においては、市内連携の下、市にゆかりがある企業や新たな縁ができた企業に積極的にアプローチする。

【要 望】 本市ならではの特産品を数多くラインナップできるように、新たな返礼品の開拓に向けた取組を進めるとともに、市の事業に共感した個人や企業から寄附を募るクラウドファンディング型ふるさと納税においても、スポーツ施設の充実など寄附を募集する事業を見極め、SNS等を活用しながら、さらなる寄附獲得を目指す。

【市 長】 得を目指し、取組を推進するよう要望する。

【議 案】 水道事業の経営健全化と経費基盤強化に向け取組を進めるというが、具体を開く。

【市 長】 将来にわたり、安心して持続可能なサービスを提供するには、利益や内部留保資金の確保が必要と考え、そのために、企業債発行の適正な基準を維持することで、将来の負担を軽減するとともに、国庫補助金の活用や事務事業の見直しなどさらなる経営の健全化と基盤強化を図る。

【要 望】 本市水道料金は府内でもトップクラスに安いが、頻発する自然災害や八潮市の道路陥没事故等を目の当たりにすると、適正な料金で財源を確保し、市民生活を守るために必要な施設の更新等を進めることが求められていると考える。持続的な水道サービスを提供に向け、料金の在り方を検討するよう要望する。

【その他の質問】 ○市長や理事者を筆頭に庁内

○王仁公園と趣の異なるスケートボードパークの整備を

市政運営方針は市ホームページ、市役所別館6階の行政資料コーナーのほか、市議会ホームページからも御覧いただけます。

◀市政運営方針（要旨）はこちら

市政運営方針

伏見市長の市政運営方針（抜粋）

令和7年度の取組方針

歯止め利かない少子化・人口減少時代を真に迎える中、まちの魅力向上を図り、人々から選ばれるまちを目指し、最重点施策である子育て・教育施策の充実と枚方市駅周辺再整備を一層加速させていく。

先行きが不透明な時代においても、多様性を認め合い、地域の環境と調和しながら、一人一人が自分の夢を追求し、人生の選択肢を広げることができるよう、あらゆる世代に笑顔があふれる枚方市を目指して様々な施策に取り組み、持続的な発展へとつなげていく。

2つの最重点施策

最重点施策① 子育て世帯をターゲットにした施策

1 安心して楽しく過ごせる、子育てできる環境の充実

- ▶子どもの人権と最善の利益の尊重を最優先に、児童虐待の早期発見、予防、防止に向けて取り組む。
- ▶児童相談所と一時保護施設の開設に向けた基本計画を策定する。
- ▶妊婦健康診査の受診費用の負担軽減を図るなど、妊娠、出産、育児の切れ目のない支援を強化する。
- ▶子どもの発育状況の早期把握と状況に応じた早期支援につなげるため、新たに5歳児健診を設ける。
- ▶通年での待機児童解消に向け、東部エリアに臨時保育室を開設する。
- ▶私立保育所等における障害児保育の促進に向け、補助制度の充実を図る。
- ▶留守家庭児童会室が児童にとってよりよい居場所となるよう施設改修を行うとともに、長期休業期の昼食提供サービスを全校に拡大する。
- ▶保護者の就労状況などにかかわらず利用可能な「子ども誰でも通園制度」を試行実施する。
- ▶子どもの遊び場の拡充に向け、就学前児童を対象とした屋内型施設「（仮称）子ども未来館」を整備する。

2 子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす教育の充実

- ▶教育大綱や教育振興基本計画に基づき子どもが主体の魅力ある学校づくりを推進する。
- ▶教職員のワークライフバランスを推進することで、やりがいを高め、より効果的で質の高い教育の実現

を目指すとともに、子どもたちのより豊かな学びへとつなげる。

- ▶豊かな心と健全な体の育成のため、中学校の全員給食の10年度2学期からの開始に向け取り組む。
- ▶支援教育のさらなる質の向上に向け、「（仮称）枚方市の支援教育の在り方について」を策定する。
- ▶全ての子どもが社会とのつながりを持てるよう、教育支援ルーム指導員を全小・中学校へ配置するとともに、対話や学習ができるメタバース空間を設置する。

最重点施策② 枚方市駅周辺再整備の一層の推進

- ▶枚方市駅北口駅前広場のさらなる公共交通の利便性向上や、より安全な歩行空間の確保により、市内外から多くの人を迎え入れるにふさわしい玄関口になるよう整備する。
- ▶新庁舎の目指す姿や必要な機能等について庁内横断的な検討を進め、新庁舎整備基本計画を策定する。
- ▶歴史、文化などの地域資源を一体的に生かしたまちづくりを進めるため、天野川から枚方宿、淀川にかけての回遊性の向上や来訪の促進に取り組む。
- ▶枚方市駅周辺再整備の早期実現に向けて、みどりの大空間や市有地の有効活用など、まちの魅力を高める整備内容の検討を進めるとともに、具体化を図るため、関係機関等との合意形成に向けて取り組む。

5つの基本目標を具体化する取組

1 安全で、利便性の高いまち

- ▶障害者や高齢者などが安心して避難生活を送れるよう、直接避難型の福祉避難所の指定を進め、必要な備蓄物資等への補助を行う。
- ▶避難所の衛生環境を確保するため、ポータブルトイレのさらなる備蓄に取り組む。
- ▶水道管路の維持管理の効率化に向け、人工衛星データを基にしたA I 解析で漏水探知を広域連携により実施するほか、各下水道ポンプ場の耐震化や老朽化対策を行うとともに、家屋の浸水や道路冠水などの被害軽減に向けた雨水管整備工事に取り組む。
- ▶長引く物価高騰に対する経済的な支援策として、国の交付金を活用した本市独自の支援策を可能な限り迅速かつ効果的に実施する。
- ▶既存の公共交通を補完する地域自主運行型コミュニティ交通を支援するとともに、都市計画道路の長尾杉線、牧野長尾線（長尾大池部）の7年度末の供用開始に

に向けた整備を計画的に進める。

2 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち

- ▶ひらかたポイント事業のスマートフォンアプリにデジタル手帳の機能を追加し、継続した健康づくりを後押ししていく。
- ▶7年夏頃の保健所移転に伴い、新施設の機能充実を図るとともに、隣接する市立ひらかた病院、医師会館との連携により、健康危機管理拠点としての役割を強化する。
- ▶高齢者が生きがいを持ちながら、無理なく地域で就労の場を得る仕組みづくりとして、短時間の就労的活動を支援する介護予防の取組を新たに実施する。
- ▶重度障害者の自立した生活を支援するため、グループホームの整備に向け公募の進めるとともに、障害者が地域での生活を試行的に体験できる機会や場の整備を進め、地域での生活への円滑な移行を推進する。
- ▶多文化共生社会の実現に向け、外国人市民からの様々な相談に対応できる体制の検討を進める。
- ▶終戦から80年を迎え、平和への機運が高まる中、若者が自分たちにできることを考え、平和へのメッセージを広く発信する機会を創出する。

3 一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち

- ▶若者の声を取り入れながら、淀川河川敷におけるスケートボードパークの整備に向けた設計に取りかかり、アーバンスポーツに親しめる場を拡充する。
- ▶総合文化芸術センターにおいて、魅力的で多彩な事業を展開し、質の高い文化芸術に触れる機会の充実と、人々の交流やにぎわいの創出に取り組む。

4 地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち

- ▶大阪・関西万博では、様々な催事へ出展し、国内外からの観光客に本市の魅力を広くPRすることで、誘客を図るほか、ビジネスマッチングの機会を創出するなど、地域経済の活性化を目指す。
- ▶ひらかた万博では、共創により生まれた特産品等を披露するイベントの開催など、広く市内外へ発信するとともに、同万博の取組で育まれた多様な主体による連携と共創の仕組みを継続していく。
- ▶市内中小企業の人材確保・定着を目的とした奨学金返還支援制度を創設する。

- ▶東部地域の豊かな自然や農産物等の地域資源を生かした観光コンテンツや特産品の創出、ツーリズム化を多様なステークホルダーとの共創により促進する。
- ▶本市の農業を将来にわたり持続させていけるよう、新規就農者の確保に向けた支援を行い、継続的な就農につなげる。

5 自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち

- ▶2050年ゼロカーボンシティ実現に向け、市内ため池に設置しているメガソーラーの発電を拡大し、脱炭素とため池管理費用の確保など、地域課題の解決を図るモデル事業を推進する。
- ▶地域脱炭素の取組の促進に向けて、創エネ・省エネ設備に対する補助を拡大する。

施策を推進するための基盤となる取組

- ▶全ての施策の根底に人権尊重の視点を置き、人権侵害は許さないという意志の下、お互いを思いやる心豊かな人権が尊重されるまちづくりを進める。
- ▶インフレにより事業費支出が増加傾向である社会情勢等に鑑み、既存事業のスクラップアンドビルドの徹底により、施策の実施や拡充に取り組む。
- ▶旧中宮北小学校跡地の活用について、地域との調整を行いながら、7年度中の構想の具現化に向け検討を進める。
- ▶市立ひらかた病院について、医療を取り巻く状況の変化や厳しい経営状況等を踏まえて、経営強化プランを見直し、持続可能な経営を目指す。
- ▶人口減少や節水機器等の普及などにより水需要の減少が見込まれる厳しい経営環境の中、経営の健全化と基盤の強化に向けた取組を進める。
- ▶枚方市駅前市民窓口センターの利用促進を図るとともに、同センターで導入した窓口での申請手続を円滑にするシステムを本庁舎や各支所へも展開する。
- ▶ふるさと納税について、プロモーションを展開するとともに、新たな返礼品の開拓を行う。また、企業版ふるさと納税についても、本市とゆかりのある企業を中心にアプローチを推進する。
- ▶健康経営の取組を推進することで、職員のウェルビーイングの向上と、一層質の高い市民サービスの提供につなげるとともに、職員一人一人が自身の能力を最大限に発揮し、やりがいを感じながら働くことができる職場環境の整備を進め、人材の定着や組織力の向上を図る。